

Hitotsubashi University Business School

一橋ビジネススクール

一橋大学大学院 経営管理研究科

MBA 2026



HITOTSUBASHI
UNIVERSITY

HUB

BUSINESS SCHOOL

国立キャンパス

〒186-8601
東京都国立市中 2-1



アクセス

JR 中央線 国立駅 徒歩約 10 分

JR 南武線 谷保駅 (北口) 徒歩約 20 分

国立駅行 一橋大学下車 バス約 6 分

千代田キャンパス

〒101-8439
東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内



アクセス

東京メトロ 半蔵門線 / 都営地下鉄 新宿線・三田線
神保町駅 A8 出口 徒歩約 3 分

東京メトロ 東西線

竹橋駅 1b 出口 徒歩約 4 分

HUB ポータルサイト
<https://www.hub.hit-u.ac.jp/>





日本企業の経営革新と 高度経営人材の育成

一橋大学は、日本におけるビジネス教育・研究の中心として、企業・社会の中核を担う人材である“Captains of Industry”を数多く輩出してきました。

一橋ビジネススクール(HUB)は、そうした建学の精神に基づき、新たな時代の高度経営人材を育成するため、多様なプログラムを開講しています。

少人数体制による手厚い指導の下で得られる充実した学びを、すべてのプログラムで重視しています。

学びのニーズに応じた多様なプログラム

日本語・英語の言語が選べるほか、経営の全領域をカバーするMBAに加え、金融財務のプログラムや観光MBAといった特定領域のコースを設定しています。開講時間帯は全日制のほかに、働きながら通える夜間・土曜のプログラムも用意しています。

ゼミナールを核とする少数精鋭教育

ゼミの人数は最大10人程度。各自の問題意識にしたがって調査・研究を進め、教員や受講者との討議を通じて経営思考力を深める場となります。

理論と現実の往復運動

理論やフレームを通して複雑な現実を観察し、その一方で、自分の目で見た現実の観察結果から、新たな理論的洞察を導き出します。そうした往復運動を繰り返し、理論と実践をバランスよく学んでいきます。



一橋大学MBAプログラム
紹介動画はこちら



世界に通用する経営力を身につける

一橋ビジネススクール(HUB)は、

日本語プログラムの経営管理専攻 (School of Business Administration: SBA) と、

英語プログラムの国際企業戦略専攻 (School of International Corporate Strategy: ICS) の

2つのスクールで構成されています。

その下で、4つのMBAプログラムが設置されています。



国際認証の取得

経営管理専攻および国際企業戦略専攻は、世界最大のビジネススクールの品質評価機関 AACSB International の国際認証を2021年に取得しています。AACSBの認証を取得しているのは世界のトップクラスのビジネススクールであり、両専攻は日本の国立大学として初めて取得しました。現在も厳格な認証プロセスを通じて、高品質のマネジメント教育を提供しています。

専攻	日本語プログラム 経営管理専攻(SBA)		英語プログラム 国際企業戦略専攻(ICS)	
プログラム	経営分析プログラム	経営管理プログラム サブプログラム: ホスピタリティ・マネジメント・プログラム	金融戦略・経営財務プログラム	MBA
概要	経営層としての活躍が期待される実務経験者や、高度専門職でのキャリアを希望する社会人・新卒の方を対象として、先端的なマネジメント研究に取り組む教員による講義や実務家との対話を通じて優れた分析能力と深い思考力を養成し、将来を担う高度経営人材を育成します。	都心の企業・官公庁に勤務されている方を主な対象として、企業や社会の将来を担う高度経営人材を育成します。経営の各領域で最先端の研究に取り組む常勤教員による講義と、豊富な経験を有する実務家教員による講義が効果的に組み合わせることで、「理論と現実の往復運動」を体感できるプログラムです。	確かな金融知識に裏打ちされた、世界で通用するキャパテンズ・オブ・インダストリーの育成を目指します。さまざまなデータを計量的に分析していくうえで必要となる統計学やデータ分析の知識や技術を習得し、データに基づいた金融戦略・経営財務の意思決定を実現する独自のカリキュラムを展開しています。	ICSは、異なる文化・多様な学問領域・ビジネスに対するさまざまな考え方の架け橋となり、「2つの世界の融合(Best of Two Worlds)」の実現をミッションとして掲げています。日本を熟知し、アジアと協働し、世界に大きなインパクトを与えるグローバル・ビジネスリーダーの輩出を目指しています。
修了年数	2年間	2年間	2年間	2年制と1年制のいずれかを選択
入学時期	4月	4月	4月	9月
開講時間	平日昼間	平日夜間・土曜	平日夜間・土曜	平日昼間
場所	国立キャンパス	千代田キャンパス	千代田キャンパス	千代田キャンパス
実務経験	—	3年以上	2年以上	2年以上
在学生の分布	<p>平均年齢26歳(5年一貫学生を除く)</p> <p>入学前のキャリア: 留学生他 5%, 社会人 44%, 新大卒 51%</p> <p>性別: 女性 23%, 男性 77%</p> <p>国籍: 海外 31%, 日本 69%</p>	<p>平均年齢38歳</p> <p>社会人 100%</p> <p>性別: 女性 40%, 男性 60%</p> <p>国籍: 海外 2%, 日本 98%</p>	<p>平均年齢35歳</p> <p>社会人 100%</p> <p>性別: 女性 17%, 男性 83%</p> <p>国籍: 海外 2%, 日本 98%</p>	<p>平均年齢31歳</p> <p>社会人 100%</p> <p>性別: 女性 47%, 男性 53%</p> <p>国籍: 海外 81%, 日本 19%</p>
修了要件	<ul style="list-style-type: none"> ・2年以上在学 ・34単位以上を修得 ・ワークショップレポート(学位論文に相当)の審査および最終試験に合格 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年以上在学 ・34単位以上を修得 ・ワークショップレポート(学位論文に相当)の審査および最終試験に合格 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年以上在学 ・34単位以上を修得 ・学位論文(修士論文)の審査および最終試験に合格 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年制コース57単位以上を修得 ・2年制コース59単位以上を修得

経営分析プログラム

場所 国立キャンパス

開講時間 平日昼間

フルタイムでじっくり学ぶ
グローバルに活躍できる
高度経営人材・高度専門職人材を育成



藤原 雅俊 教授

経営戦略論
イノベーション・マネジメント

プログラムディレクターからのメッセージ

現象を読み解く理論の眼 現場の洞察力

経営分析プログラムは、将来を担う高度経営人材の育成を目指した全日制的MBAプログラムです。複雑な市場環境の中で骨太の戦略を立てて組織を力強く率いるには、現象を読み解く理論の眼をしっかりと身につけ、現場から深い洞察を引き出す力を養うことが必須となります。そのため我々は、広く経営に関わる理論と実践を学ぶ科目を用意し、教育コンセプトである「理論と現実の往復運動」を素早く何度も繰り返す場を提供しています。全日制的プログラムで多様な受講者とともに経営力をじっくりと養う2年間は、自らのキャリアのみならず長い人生においても、かけがえのない財産になります。ぜひ、経営分析プログラムにおける学びを通じて経営を大きく深く考える力を養い、産業界を牽引する経営リーダーとして羽ばたいてください。

カリキュラム

経営学・会計学・マーケティング・ファイナンスなどの基本的な知識の修得に加えて、高い視点と深い洞察に基づいて企業経営を構想するための独自プログラムを提供しています。

① 講義 (コア科目、選択科目)	基本となるコア科目と、より進んだ内容を学ぶ選択科目を通じて、企業経営に関わる専門知識を身につけるとともに、高度なマネジメントに不可欠となる深い洞察力と広い構想力を身につけます。また、英語によるコミュニケーション能力を高めるEnglish Communicationを必修科目としています。
② 演習 導入ワークショップ (1年次前半) 基礎ワークショップ (1年次後半) ワークショップ (2年次)	各種のワークショップはいずれも少人数で構成され、教員やグループメンバーとの密度の濃い対話を通じた深い学びの場になります。1年次から2年間をかけて段階的に学んでいくことで、自身の問題意識を研究課題として追究していくことができます。
③ 課外活動	実学をより深く修得するため、企業訪問や海外研修を実施するとともに、学外のビジネスコンテストや企業との共同プロジェクト等を任意参加で実施しています。

経営分析プログラムの特徴

POINT 1 フルタイムで深く学ぶカリキュラム

企業経営に関わる理論をしっかりと修得し、高度な専門知識と分析能力を身につけることができます。フルタイムで徹底的に考え抜くからこそその深い学びの機会が得られます。

POINT 2 国籍や経歴の異なる多様性豊かな仲間

多様性豊かな仲間とともに学び合うことで、多様な価値観を生かした創造力を養成します。英語で経営を学ぶ講義を通じて、グローバルに活躍するための学習機会を得ることもできます。

POINT 3 国内外での豊富な研修機会

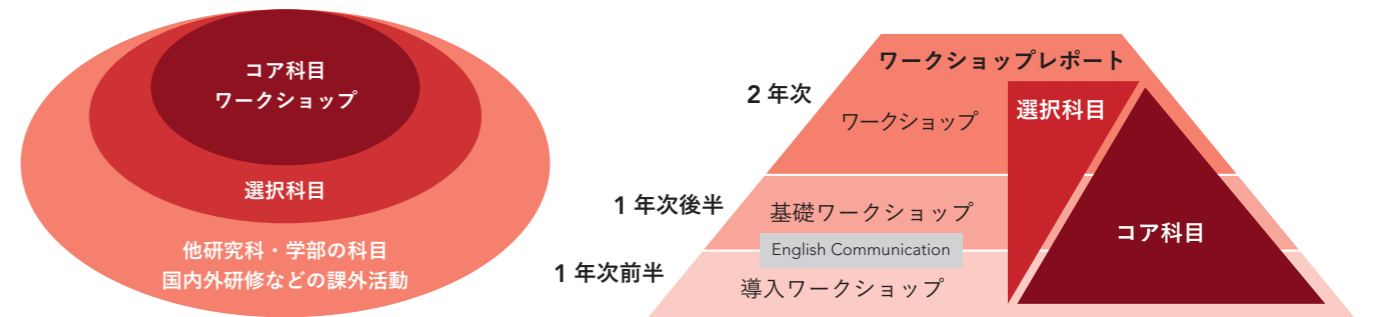
国内での企業訪問や海外への訪問研修など、フルタイムだからこそ実現できる豊富な課外活動機会にも恵まれています。

POINT 4 産業界を牽引する経営リーダーの育成

各科目でゲスト登壇する実務家との対話を通じて、幅広くさまざまな産業における最前線の動向や先端的な知見を学びます。理論と現実の双方を深く捉えることにより、優れた経営リーダーを育成します。



経営分析プログラムのカリキュラム体系



主な科目

コア科目	経営戦略、マーケティング、財務会計、企業財務、経営組織、マネジメント・コントロール、企業データ分析、経営哲学
選択科目	ビジネス・エコノミクス、マーケティング・リサーチ特論、証券分析とポートフォリオマネジメント、金融リスクマネジメント、M&Aの理論と実務、特別講義(企業経営分析)、特別講義(Sustainable Marketing Strategy)、特別講義(オープンイノベーション戦略とウェルビーイング(実習編))、戦略的リーダーシップ、戦略的マーケティング、ポートフォリオマネジメントの理論と実務、サステナブル・ファイナンスの理論と実務、サステナビリティ経営、企業価値経営論、オープンイノベーション戦略とウェルビーイング、Global Marketingなど
英語コミュニケーション科目	English Communication

在学生の声

イノベーションに チャレンジできる人材へ

城戸 大祐さん

Q1 志望動機や「このプログラムを選んでよかった」と思う点を教えてください。

私は不動産・ホテル・鉄道等のグループの持株会社で勤務しており、新規事業担当として、スタートアップ企業との事業連携等に取り組んでいます。こうした経験から、組織やイノベーションに関心があり、改めて経営を体系的に学びたいと考え本プログラムを志望しました。講義では理論学習とケーススタディを少人数で行うため、密度の濃い時間を過ごせています。また、集中講義や海外研修等で、経営者や海外で働く方と議論する機会に恵まれ、経営の現場で何が行われているかを解像度高く学ぶことができています。

Q2 仕事や家庭との両立はどのようにしていますか。

時間割を工夫して、週に一日は出勤するようにしています。また、ありがたいことに家族には理解してもらっていますが、家にいる間はなるべく家族と過ごせるように、キャンパスの自習室などを活用して勉強時間を確保しています。



1年次 1週間のスケジュール (城戸 大祐さん)

時間割	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	
8:00								
1時限 8:45~10:30	勤務	講義(1コマ)	講義(2コマ)	講義(1コマ)	発表準備	予習・復習 レポート作成	家族との時間	
2時限 10:45~12:30					ワークショップ			
3時限 13:15~15:00			予習・復習 プレゼン準備	グループワーク	予習・復習			予習・復習
4時限 15:15~17:00					講義(1コマ)			講義(2コマ)
5時限 17:10~18:55		予習・語学		研究資料作成	グループワーク			
20:00				散歩		家族との時間		
22:00								
24:00	文献読書	文献読書	文献読書	文献読書				

講義の紹介

経営戦略

この講義では、経営戦略論の主要な領域である競争戦略と全社戦略に関する基本的な考え方を修得するとともに、その考え方を現実の経営現象に適用して高度に分析したり、実際の意思決定に応用するための能力を養います。経営戦略に関わる基本用語を表面的に知るのではなく、その考え方を深く理解して実践的に応用できる水準にまで戦略リテラシーを引き上げていきます。この高度な戦略リテラシーを深く体得するために、教員による講義に加えて、ケーススタディやグループワークなど、扱うテーマに応じて最適な教育手法が複合的に用いられます。

経営組織

この講義では、変化の激しい外的環境に効果的かつ効率的に適応する組織的な仕組みを構築すると同時に、内部の人々から組織目標の達成に必要なエネルギーを引き出すために必要となる、さまざまな組織理論や経営技法を身につけていきます。個人の動機付けに関わるミクロの組織論から、組織の設計や環境・制度との関わりを扱うマクロの組織論にいたるまでをカバーしながら、組織を運営するマネジャーとして必要なスキルを学んでいきます。このスキルを身につけるために、教員による講義に加えて、ケーススタディやグループワークなど、扱うテーマに応じて最適な教育手法が複合的に用いられます。



年間のスケジュール

年次	調査・分析の基礎を学ぶ	各自の問題意識に基づき研究
4月	導入ワークショップ開始	科目履修開始
5月		春学期試験
6月		
7月	導入ワークショップ最終報告会	夏学期試験 夏期集中講義期間 (7月下旬~8月上旬)
8月		海外研修(選考あり) ※開催時期は年度で異なる
9月	基礎ワークショップ開始	一橋大学創立記念日(9/24)
10月		秋学期試験
11月		
12月	基礎ワークショップ最終報告会	
1月		冬学期試験 冬期集中講義期間(1月~3月)
2月		マーキュリー会(同窓会)
3月		成績発表
4月	ワークショップ開始	科目履修開始
5月		春学期試験
6月		
7月		夏学期試験 夏期集中講義期間 (7月下旬~8月上旬)
8月		海外研修(選考あり) ※開催時期は年度で異なる
9月	ワークショップ中間報告会	一橋大学創立記念日(9/24)
10月		秋学期試験
11月		
12月	ワークショップ最終報告会	
1月	ワークショップレポート提出	冬学期試験 冬期集中講義期間(1月~3月)
2月		マーキュリー会(同窓会)
3月		修了者発表 学位記授与式

※海外研修につきましては、変更する場合があります。

Q3 今後どのような人材を目指していきますか。

本学で培った学びとさまざまな出会いを糧に、勤務先の持続的な企業価値向上を図るとともに、個人としてイノベーションにチャレンジできる人材を目指します。

修了者の声

背景にあるメカニズムに踏み込む

グローバル食品メーカー勤務 小島 由梨さん

「このプログラムを選んでよかった」と思ったこと

理論を基礎から学び、深く思考する力を養えたことです。ビジネススクールというと、フレームワークを習って流行りの企業についてディスカッションするというイメージを持っていました。しかし、本プログラムでは表層的な議論に留まらず、企業の成功や失敗の背景にあるメカニズムについて踏み込んで考えるトレーニングができました。先生方や仲間ととことん議論し、考える力を鍛えたい方におすすめです。

このプログラムで身につけたこと

深く思考する力に加えて、物事を広い視野で捉えようとする姿勢が身についてきたと感じます。現在所属する企業でも、短期的な製品戦略だけでなく中長期的なビジネス機会の検討にも積極的に関与しています。



修了後の就職先
(2025年3月修了者)

アクセントチュア、財務省、四海一通貿易、大日本印刷、大和証券、デロイトトーマツベンチャーサポート、デロイトファイナンシャルアドバイザー、電通、トヨタ自動車、日産自動車、日本IBMシステムズエンジニアリング、日本タタ・コンサルタンシー・サービス、博報堂、パナソニックオペレーションズ・エクセレンス、みずほ証券、ミスミ、三井住友銀行、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、DMM.com、EY新日本有限責任監査法人、Genky Drugstores、HOYA、KPMG FAS、KPMGコンサルティング、Kyla、MAMBA、PwC Japan 合同会社、PwC Japan 有限責任監査法人、PwC アドバイザー、ReGACY Innovation Group、ZS Associates International, Inc. など

経営管理プログラム

サブプログラム：
ホスピタリティ・マネジメント・プログラム

場所 千代田キャンパス

開講時間 平日夜間・土曜

働きながらMBAを取得
実務経験を基盤に、理論的思考と組み合わせて
高度経営人材を目指す



佐々木 将人 教授

経営組織論、経営戦略論

プログラムディレクターからのメッセージ

実務経験や問題意識を 幅広い視野から捉え直す

経営管理プログラム(ホスピタリティ・マネジメント・プログラム)は、経営学、会計学、マーケティング、ファイナンスの4領域を中心として、広くかつ体系的に企業経営に関わる知識を学ぶことで、高度経営人材を育成するプログラムです。講義やワークショップでの教員との対話や学生相互のディスカッションを通じて「理論と現実の往復運動」を行う中で、皆さんの実務経験や問題意識を、一歩高い視点、幅広い視野から捉え直すことができるでしょう。また、本プログラムは、平日夜間・土曜日に千代田キャンパスで開講しており、東京都心で昼間お勤めの方が就業時間後や休日に通いやすい環境が整っています。当プログラムに参加し、教員や仲間との濃密な議論を繰り返しながら、ご自身の思考の基盤をつくり、未来のキャリアを切り拓いてください。

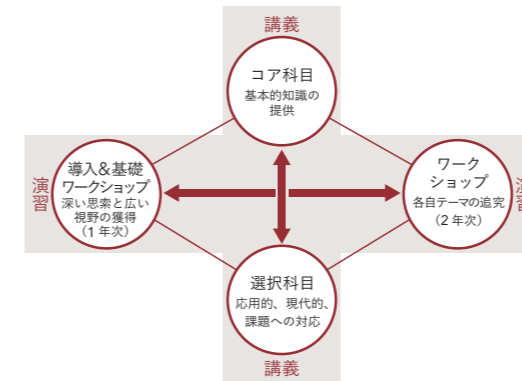


POINT 4 ホスピタリティ業界をリードする

サブプログラムのホスピタリティ・マネジメント・プログラム(観光MBA)では、経営管理プログラムの教育内容をベースにホスピタリティ専用科目を設け、ホスピタリティ産業の将来を担う高度経営人材を育成します。

カリキュラム

経営学・会計学・マーケティング・ファイナンスなどの基本的な知識の修得に加えて、高い視点と深い洞察に基づいて企業経営を構想するための独自プログラムを提供しています。



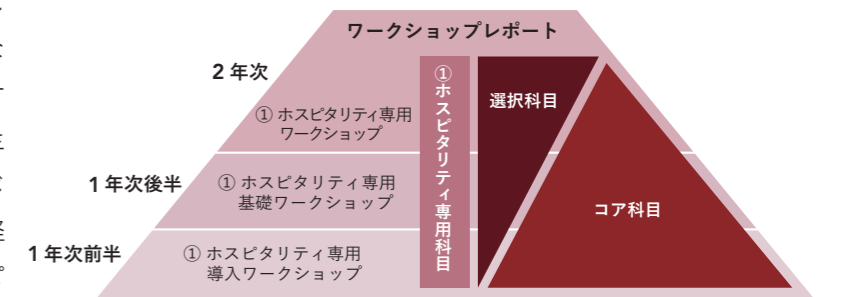
①講義 (コア科目、選択科目)	基本となるコア科目と、より進んだ内容を学ぶ選択科目を通じて、企業経営に関わる専門知識を身につけるとともに、高度なマネジメントに不可欠となる深い洞察力と広い構想力を身につけます。選択科目は、より発展的な専門知識を提供する科目と、実務家教員が講義を担当する実践的な科目によって構成されています。
②演習 導入ワークショップ (1年次前半) 基礎ワークショップ (1年次後半) ワークショップ (2年次)	各種のワークショップはいずれも少人数で構成され、教員やグループメンバーとの密度の濃い対話を通じた深い学びの場になります。1年次から2年間をかけて段階的に学んでいくことで、自身の問題意識を研究課題として追究していくことができます。

ホスピタリティ・マネジメントに焦点を当てた観光MBAプログラム(サブプログラム)

カリキュラムは、各領域の専任教員による講義と、ホスピタリティ産業やツーリズム産業に精通した実務家による講義で構成されます。このような組み合わせにより、本学のMBAコースが目指す「理論と現実の往復運動」を実現し、現実の場で生かせる思考力・分析力を構築していきます。同じ千代田キャンパスの日本語MBAコースである「経営管理プログラム」をベースにしながら、ホスピタリティ産業に関わる知見の習熟のための教育内容を加えた、サブプログラムと位置付けています。

※「観光MBA」とは、観光庁の観光人材政策の一環として観光産業をリードするトップレベルの経営人材の育成のためにスタートしたMBAプログラムです。

ホスピタリティ・マネジメント・プログラムのカリキュラム体系



※コア科目・選択科目は経営管理プログラムと同じです。

経営管理プログラムの特徴

POINT 1 体系的に理解して、知識基盤をつくる

経営学、会計学、マーケティング、ファイナンスの4領域を中心として、企業経営に関わる経営の体系的な知識を学びます。ワークショップでは、教員と学生を交えた密度の高い対話を通じて、深い洞察力を磨きます。

POINT 2 ビジネスの第一線で活躍する仲間が集う

さまざまな業界の第一線で活躍する受講生が参加しており、高次元で濃密なディスカッションの機会が多く、自身の事業課題や研究関心について新たな視点での示唆を得られます。修了後も続く交流が期待できます。

POINT 3 未来のキャリアを構築する

実務経験を基盤としながら、企業経営に関わる専門知識と分析能力を深めることで、変化する環境に的確に対応できる能力を身につけていきます。将来の起業家や経営幹部となりうる人材を育成します。

主な科目

コア科目	経営戦略、マーケティング、財務会計、企業財務、経営組織、マネジメント・コントロール、企業データ分析、経営哲学
選択科目	人材マネジメント、テクノロジー・マネジメント、M&Aの理論と実務、シナリオ・プランニング、経営者講義A、経営者講義B、ビジネス・デベロップメント、経営実践論、特別講義(イノベーション・マネジメント)など
ホスピタリティ・マネジメント・プログラム専用科目・特別講義	専用科目:ホスピタリティ・マネジメント、ホスピタリティ・マーケティング 特別講義:ホスピタリティ・アセットマネジメント、ホスピタリティ・コンサルティング、デスティネーション・マーケティング

在学生の声

講義の知識を業務で すぐに実践し、成果を確認

栗林 広行さん

Q1 志望動機や「このプログラムを選んでよかった」と思う点を教えてください。

私はこれまで営業の現場を中心に歩んできましたが、経営に携わる立場となり、経営学の基本を体系的に学び直したいと考えたのが志望の動機です。「理論と現実の往復運動」を目指すカリキュラムは、学んだ知識を自社の現実に適用し、変革を実行していくために不可欠であると感じました。講義で得た知識をすぐに業務で実践し、成果を確認できるのは、夜間プログラムならではの長所です。また、ホスピタリティ分野の事業にも携わっているため、専門プログラムで高度な知識を深められる点も大きな魅力でした。

Q2 仕事や家庭との両立はどのようにしていますか。

これまでは出張や仕事での会食が多かったのですが、在学2年間は授業を中心に働き方を大きく見直すことになり、関係社員には協力してもらっています。講義日も集約させることで、週末は趣味の時間を確保しています。



Q3 今後どのような人材を目指していきますか。

学んだ経営理論と培った思考力を実践に生かし、どのような環境でも的確に意思決定を下し、組織を導ける経営人材として、会社の持続的成長に貢献していきたいです。

修了者の声

新しいテーマ・課題へ 取り組むハードルが低くなる

外資系コンサルティング会社勤務 塚口 あゆ美さん

このプログラムで身についたこと

このプログラムを通して会計や戦略、組織、M&Aなど経営の全体像を体系的に学ぶことができたので、仕事においても新しいテーマや課題へ取り組むハードルがこれまで以上に低くなりました。コンテンツだけでなく、教授からプロフェッショナルマインドを学ぶことができる授業もあり、そのような授業では特にこのプログラムを選んでよかったと感じました。

学んだコンテンツや知識はもちろん日々の業務で生かされていますが、働きながら通っていたことで身についた時間の生み出し方・使い方も生かされています。

志望者へのメッセージ

働きながら学ぶのは身体的には大変ですが、精神的にはとても充実し、得られるものは大きいです。ぜひ挑戦してみてください。



1年次 1週間のスケジュール (栗林 広行さん)

時間割	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
8:00							
12:00	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	レポート作成・ワークショップ準備など	レポート作成・ワークショップ準備など
16:00						趣味など	グループワーク(web)
18:00							
20:00	6時限 18:20-20:05 ワークショップ						
22:00		7時限 20:15-22:00 講義(1コマ) グループワーク	講義(2コマ) グループワーク	講義(2コマ) グループワーク	会食		
24:00							レポート作成・ワークショップ準備など

講義の紹介

経営戦略

経営戦略の主要な領域である競争(事業)戦略と全社戦略について、(1)講義、(2)ケースディスカッション、(3)個人レポート、(4)グループワーク、の4点を組み合わせて、基本的な考え方を理解するとともに、それを応用するための基盤となる能力を修得していきます。この講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解した上で、現実の状況に適用できる水準で、分析・策定するための基本的な能力を獲得することを最終的な目標とします。講義での活発な議論を通じて、企業の経営戦略に関して広い視野と深い思考を養うことができます。

ワークショップ

ワークショップでは、学生自身の問題意識を出発点として、各自の研究課題を段階的・発展的に育てていながら、深い探究を行います。導入ワークショップ(1年次前半)では、議論と発表のトレーニングを行い、基礎ワークショップ(1年次後半)では、課題論文を通じて問いの立て方や調査・分析方法を学んでいきます。2年次からはワークショップレポート(学位論文に相当)に本格的に取り組みます。ワークショップは少人数で構成され、教員・メンバーとの密度の高い相互作用を通じた学びの場になっています。修了後もMBAでの学びを実業に生かすため、個人研究や仲間との研究会を立ち上げて、学びを継続している修了者も多くいます。



年間のスケジュール

年次	調査・分析の基礎を学ぶ	1年次	2年次	問いを深め、研究を展開する
4月	導入ワークショップ開始	科目履修開始	導入ワークショップ開始	科目履修開始
5月		春学期試験		春学期試験
6月				
7月	導入ワークショップ最終報告会	夏学期試験 夏期集中講義期間 (7月下旬~8月上旬)		
8月				
9月	基礎ワークショップ開始	一橋大学創立記念日(9/24)		
10月		秋学期試験		
11月				
12月	基礎ワークショップ最終報告会			
1月		冬学期試験 冬期集中講義期間(1月~3月)		
2月		マーキュリー会(同窓会)		
3月		成績発表		
4月	ワークショップ開始	科目履修開始	ワークショップ開始	科目履修開始
5月		春学期試験		春学期試験
6月				
7月		夏学期試験 夏期集中講義期間 (7月下旬~8月上旬)		
8月		ワークショップ夏合宿		
9月	ワークショップ中間報告会	一橋大学創立記念日(9/24)		
10月		秋学期試験		
11月				
12月	ワークショップ最終報告会			
1月	ワークショップレポート提出	冬学期試験 冬期集中講義期間(1月~3月)		
2月		マーキュリー会(同窓会)		
3月		修了者発表 学位記授与式		



中川 秀敏 教授

ファイナンス
(金融リスク計量モデル、
数理ファイナンス)

プログラムディレクターからのメッセージ

複雑で不確実な時代に 自らの責任で意思決定する

金融戦略・経営財務プログラムは、2000年に前身となる金融戦略コースが創設されて以来、ファイナンスの思考力を修得し、データ分析能力を鍛え、ビジネスリーダーとしての判断力を高めるプログラムを提供してきました。地政学的リスクや市場環境の変動が常態化する今日、人工知能(AI)の進展と相まって、ビジネスにおける意思決定のあり方は大きく変わりつつあります。本プログラムでは、従来から重視しているファイナンスの知識とデータ分析能力を基盤に、AIの出力についても批判的に吟味し、本質的な課題を見極める力を養います。そして、理論とデータに基づく客観的思考を武器に、複雑で不確実な環境においても自らの責任で意思決定できる力を身につけていただきたいと考えています。

金融戦略・経営財務プログラムの特徴

POINT 1 ファイナンス思考の習得

資本市場と対話するためには、市場参加者がどのように考えるのかを学ぶことが必要です。「この事業は有望だろう」という主観的な予測に加えて、「市場はどう評価するか」と客観的に思考する力を習得します。

POINT 2 データ分析能力の習得

これからの時代、多様なデータを分析し判断する能力が必須です。金融戦略・経営財務プログラムであれば、限られた勉強時間で効率よく、プログラミングやデータ分析手法を習得できます。

POINT 3 修士論文の執筆

プログラミングや統計学を勉強するだけでは、資本市場参加者を説得できる能力は得られません。修士論文を書き上げることで、授業や演習を通じて学んだ知識や手法を実際に「使える」ようになります。

POINT 4 充実した修了者ネットワーク

2000年創設以来、数多くの修了者を輩出。マーケットやM&Aの現場で修了者と対峙したという話も良く聞きます。ファイナンス思考とデータ分析能力を本プログラムで身につけた多くの仲間が得られます。



カリキュラム

STEP 1

堅固な 基礎力の 獲得

現代ファイナンスの多様な領域に共通した「知識ベース」や「フレームワーク」を修得するために、「金融の経済学」、「統計・数理モデル」、「企業財務・企業経営」の3領域が用意されています。統計学、アカウントティング、エコノミクス、コーポレート・ファイナンス、コンピューテーション、分析ツールなど各人のニーズにあわせて基礎力を固める科目群があり、専門領域をより深く学習するための基礎を作ります。

こうした基礎科目群の履修を通じて、ファイナンスの思考法を身につけていきます。

STEP 2

専門性の 追求

各人の実務上の課題や興味、目的に合わせて選択でき、さらに専門性を高めていくことができます。どの科目も、実務上のインプリケーションや成果を重視しています。また授業内で第一線の経営者・実務家をゲスト・スピーカーとして招聘するクラスも多く行われています。

他コース科目の履修

「法学研究科ビジネスロー専攻」やHUBの他プログラムの専門科目なども必要に応じて選択できます。

STEP 3

修士論文 指導とゼミ

在学期間(最短2年)を通じて、全ての学生が少人数制のゼミに参加します。

ゼミでは学生が実務上の課題を選択し、ゼミ担当教員による懇切丁寧な指導の下、修士論文作成に向けて、学習した知識を総動員して解決策を模索していきます。

修士論文は、それ自体が大きな成果ですが、追究すべきテーマを発見し自分の中で学習成果を体系化していく貴重な機会ともなります。

主な科目

基礎科目	ファイナンス理論の基礎、ファイナンス理論、コーポレートファイナンスの基礎、会計・バリュエーションの基礎、金融データ分析の基礎、コンピューショナル・ファイナンス、金融数理の基礎
専門科目	金融数理入門、線形モデル入門、金融リスク計量入門、時系列分析入門、金融データリテラシーⅠ・Ⅱ、統計プログラミング入門、ポートフォリオ投資論、ファイナンスにおける諸問題、派生証券理論、投資戦略論、ファイナンシャル・リスク・マネジメント、金融数理、データサイエンス概論、コーポレート・ファイナンスの実証分析Ⅰ・Ⅱ、アカウントティング、統計プログラミング、コーポレート・ファイナンスに関する諸問題など

在学生の声

コミュニケーションの基盤を身につける

崎山 公希さん

Q1 志望動機や「このプログラムを選んでよかった」と思う点を教えてください。

このプログラムで得た収穫は、多様な背景を持つ方々と円滑に意思疎通できる「コミュニケーションの基盤」です。同じ金融業界でも、所属やキャリアによって視点や表現は異なり、意図が通じないことは多々あります。このプログラムでは、そうした違いを超えた、共通の核となるファイナンスの思考方法や技術を叩き込まれます。その結果、相手の真意を「こういうことが言いたいんだな」と正確に読み取る力、コミュニケーション能力が養われていると実感しています。

Q2 仕事や家庭との両立はどのようにしていますか。

仕事は定時で一旦切り上げ、授業を受けた後に在宅勤務に切り替えており、妻と職場の支えや理解があって両立できています。また、通勤時間にはスマホで論文を読むなど、スキマ時間を活用しています。



Q3 今後どのような人材を目指していきますか。

高度に複雑化する社会や金融業界において、専門家の活躍が目立つようになってきました。私も一人の専門家として、さまざまな背景を持つ職業人の間に立ち、その力を結集することで、社会経済の成長と発展に貢献できる人材を目指していきたいです。

修了者の声

実務と理論を体系的に学び、業務に応用

ヘルスケア企業勤務 大村 真奈江さん

「このプログラムを選んでよかった」と思ったこと

実務に直結するケーススタディと、理論的なフレームワークを体系的に学べた点が大きな収穫でした。現在、経営企画本部に所属していますが、業務にも応用でき、「学びを現場で活かす」という実感を得られているので、このプログラムを選んで本当によかったと感じています。

このプログラムで身についたこと

学んだ理論と実践的知見を融合し、経営戦略や事業ポートフォリオの再構築、M&A戦略などの実務に応用しています。このプログラムを受講したことで、既存の枠を超えた発想力が養われ、業務の高度化に大きく役立っています。理論と実践を行き来しながら、自らの限界に挑みたい方に最適です。このプログラムでの挑戦が、次の成長ステージへの大きな一歩になります。

1年次 1週間のスケジュール (崎山 公希さん)

時間割	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
8:00							
10:00						予習・復習	予習・復習
12:00	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務		
18:00						家族との時間	家族との時間
20:00	6時限 18:20-20:05 ゼミ						
22:00	7時限 20:15-22:00	講義(1コマ)	講義(1コマ)		講義(1コマ)		
24:00							

講義の紹介

会計・バリュエーションの基礎

講義、ケーススタディを使ってDDM、DCF、残余利益モデルなどの標準的な手法を学びます。会計・バリュエーションに関連する理論に対する理解を深めることを目標とし、専門用語および分析モデルの背後にあるロジックを正確に理解した上で、講義で取り上げた分析モデルを用いて実際の企業を分析できるようになることを目指します。ガバナンス改革の影響といった現在の課題や、最近の会計研究の動向も紹介していきます。

データサイエンス概論

回帰分析、線形モデルといったデータサイエンスの基礎知識、および発展的な話題として、人工知能の開発でよく用いられる機械学習法（たとえば、サポートベクターマシン、ニューラルネットワーク、分類木（決定木）、階層的クラスタリング、k-means法、バギング法、ブースティング法など）について学びます。それら手法をプログラミングできるスキルを身につけることで、データ取得、データ浄化、データブラウジング、分析、モデリング、妥当性検証というデータサイエンスの標準的なフローを理解します。



年間のスケジュール

年次	月	イベント	備考
1年次 調査・分析の基礎を学ぶ	4月	オリエンテーション 所属ゼミ決定	科目履修開始
	5月		春学期試験 or レポート提出
	6月		
	7月		夏学期試験 or レポート提出 夏期集中講義期間 (7月下旬～8月上旬)
	8月	ファイナンスクラブ (勉強会・懇親会)	
	9月		一橋大学創立記念日 (9/24)
	10月		秋学期試験 or レポート提出
	11月		
	12月		
	1月		冬学期試験 or レポート提出 冬期集中講義期間 (1月～3月)
	2月		
	3月		成績発表 同窓会イベント
2年次 各自の問題意識に基づき研究	4月	在学生向けガイダンス	科目履修
	5月		春学期試験 or レポート提出
	6月		
	7月		夏学期試験 or レポート提出 夏期集中講義期間 (7月下旬～8月上旬)
	8月	ファイナンスクラブ (勉強会・懇親会)	
	9月		一橋大学創立記念日 (9/24)
	10月		秋学期試験 or レポート提出
	11月		
	12月		
	1月		冬学期試験 or レポート提出 冬期集中講義期間 (1月～3月)
	2月		
	3月		修了者発表 学位記授与式 同窓会イベント

国際企業戦略専攻 (ICS)

場所 千代田キャンパス

開講時間 平日昼間

「2つの世界の融合 (Best of Two Worlds)」
異なる文化・多様な学問領域・ビジネスに対する
さまざまな考え方の架け橋となる



鈴木 智子 教授

消費者行動論、マーケティング

プログラムディレクターからのメッセージ

世界にインパクトを与える ビジネスリーダー

ICS(国際企業戦略専攻)は、国立大学として日本初となる専門職大学院として1998年に設立され、英語で行うグローバルMBAプログラムを2000年に開講しました。海外のビジネススクールでも教鞭をとる教授陣が、世界トップレベルの授業を提供します。ICSでは、クラスを意図的に小規模に維持しており、一人ひとりにカスタマイズしたMBA教育を実現しています。学生は20カ国以上から集まっており、ダイバーシティの高い環境でさまざまな学習体験を積むことができます。「リーダーシップ開発の旅」として設計されている独自のコースを通じて、学生は(1)自分自身のリーダーシップ哲学とスタイルを発見し、(2)多様な視点を理解し、(3)予測不能で複雑な世界において、社会をより良くする賢い(wise)リーダーになるための一歩を踏み出します。

世界に大きなインパクトを与えることができるグローバル・ビジネスリーダーを目指すべく、ぜひご参加ください。

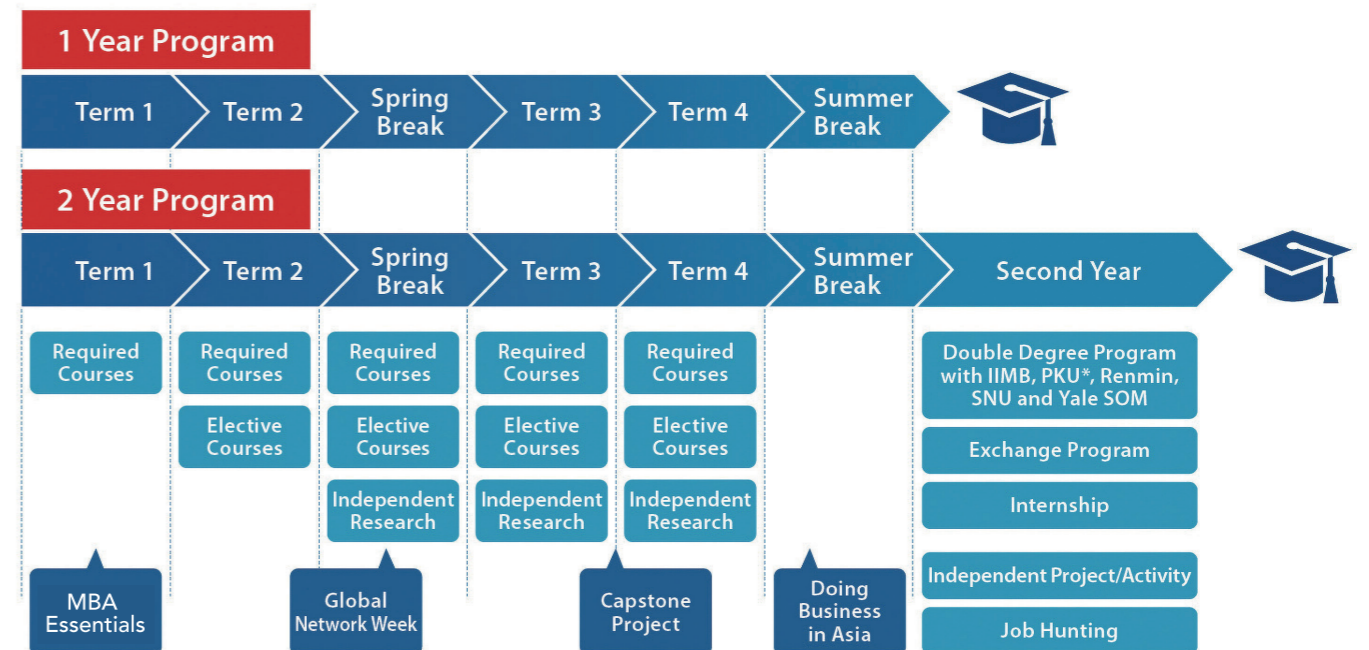
カリキュラム

ICSの授業は全て英語で行われ、9月開始の学年暦を採用するなど、世界のトップビジネススクールに匹敵するMBAプログラムを提供しています。このプログラムでは2年制と1年制の選択肢を用意し、出願時にどちらかを選択していただきます(出願受理後にプログラムを変更することはできません)。入試選抜基準は2年制・1年制とも同じです。いずれに所属しても、1年次には全ての学生と一緒に学びます。

1年制・2年制の選択

1年制	2年制
<ul style="list-style-type: none"> MBA取得後にキャリアチェンジを考えていない方 企業派遣または文科省ヤングリーダーズプログラム(YLP)奨学金を利用する方 2年次での交換留学やインターンシップを考えていない方 	<ul style="list-style-type: none"> MBA取得後にキャリアチェンジを考えている方 自費で入学する方 交換留学、ダブル・ディグリーに興味のある方 企業でのインターンシップや海外での就業を視野に入れている方

プログラムの構成



国際企業戦略専攻 (ICS) の特徴

POINT 1 ワールドクラス：世界水準の MBA

QS世界大学ランキング^{※1}日本国内1位(2023年)。国際認証(AACSB)・国内認証(ABEST21)^{※2}取得。教員と学生の比率は1:5で、少数精鋭、世界水準のカリキュラムを提供。2年制と1年制の選択が可能です。

※1 イギリスの大学評価機関による世界の大学の教育を評価するランキング
※2 2005年に創設された日本に拠点を置く国際認証評価機関

POINT 2 グローバルネットワーク：世界に学ぶ

GNAM(世界33校間ネットワーク)に日本から唯一参加。イエール大学(米国)、インド経営大学院バンガロール校(インド)、ソウル大学(韓国)、中国人民大学(中国)、北京大学(中国)とのダブルディグリープログラムやトップ22校との交換留学制度を提供しています。

POINT 3 ダイバーシティ：多様性に富む学習環境

外国人学生構成比81%。女性構成比47%。平均年齢31歳。平均実務経験7年。さまざまなバックグラウンドを有する学生間の議論に基づく参加者中心学習(participant-centered learning^{※3})。

※3 代表的な実践法として、ハーバード・ビジネススクールのケースメソッドがある。



POINT 4 キャリアサポート：強力な進路支援

学生個々のキャリア形成を個別に徹底支援します。修了後6カ月以内の就労・内定率は95%で、外国人学生の日本就労率86%を実現しています。修了後の進路は、日本企業30%・外資系企業70%です。

主な科目

シグネチャー・コース

Leadership Development Journey, Seminar, Knowledge Creation, Wise Leadership, Japanese Business & Economy, Doing Business in Asia, Global Virtual Teams, Global Network Week, Capstone Project

在学生の声

国際的な視点を持ち 英語で学べる日本のMBA

モーガン・ジェイミー・ラングさん

Q1 志望動機や「このプログラムを選んでよかった」と思う点を教えてください。

私は、10年間のハードワークを経て、一旦キャリアを中断し、海外生活を体験したいと考えていました。その際に、今後の進路を考える上で有益な時間の過ごし方をしたかったので、MBA取得を目指し、行先としては日本を選択しました。ICSは、日本で英語によるMBAコースを探していた私にとっては最適なプログラムでした。また、国際評価機関からの認証があり、グローバルな大学ランキングでも評価されるなど国際的な視点を持っていること、さらに国立大学であり、奨学金制度も充実しているため、学費もリーズナブルであったため、ICSが私にとってのベストの選択となりました。

Q2 仕事や家庭との両立はどのようにしていますか。

例えば、毎週1軒は新しいレストランを開拓するとか、東京のすべての区を巡るなど、学業や仕事以外の時間を充実させるための個人的な目標を設定することで、ワークライフバランスを取っています。



Q3 今後どのような人材を目指していきますか。

以前勤めていたエンターテインメント業界(アニメ・マンガまたはゲーム)で、またマーケティングの仕事をしたと考えています。できれば母国アメリカと日本の両方に関わる企業で、私自身も両国とのつながりを強くしていければと願っています。

※ 2024年3月時点

1週間のスケジュール (モーガン・ジェイミー・ラングさん)

時間割	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
8:00		予習・課題			予習・課題		
1 時限 8:30~10:30			予習・課題				
12:00							
2 時限 10:45~12:45	講義(1コマ)	講義(1コマ)		講義(1コマ)	講義(1コマ)		
3 時限 13:45~15:45	講義(1コマ)	講義(1コマ)	講義(1コマ)	講義(1コマ)			
4 時限 16:00~18:00	日本語クラス	グループミーティング		買い物、または目標を決めて街歩き			友人と会う、または目標を決めて街歩き
18:00		予習・課題	予習・課題		課外活動		
20:00							
21:00							
22:00							

講義の紹介

Leadership Development Journey (LDJ)

「MBAをリーダーシップ成長の旅とする」というICS MBAプログラムの教育理念に基づいて提供される必修科目です。学生は一年を通じて、自らの世界観や価値観について振り返り、自身のリーダーシップスタイルを探求します。1対1のコーチングを通じて、学生一人ひとりに対応した個別支援を提供します。

Global Virtual Teams (GVT)

GNAM(世界有数のビジネススクール33校から成るネットワーク)を通じて提供される必修科目「Global Virtual Teams」(GVT)。グローバルかつバーチャルな環境で求められるリーダーシップを育成することを目的とします。オフラインで一度も会ったことのない学生たちがグローバルチームを組み、バーチャルなコミュニケーションを図りながら、チームビルディングやネゴシエーション・エクササイズに取り組んでいます。異なる文化背景を持ち、対面で会う機会がない相手と、いかに信頼を築き、協力して目標を達成するかを探求するものです。



グローバルネットワーク

GLOBAL NETWORK FOR ADVANCED MANAGEMENT

ICSは、世界有数のビジネススクールが加盟する連携協定「Global Network for Advanced Management」(GNAM)の創設メンバーで、日本における唯一の参加校です。

GNAMは、2012年に創設され、経済環境や文化背景が異なる国や地域に拠点を置く33校のビジネススクールが加盟しており、世界中のMBA学生と共に学び合う多種多様な学習機会を提供しています。



GNW 2019 TOKYO



修了者の声

多様なバックグラウンドの同期と切磋琢磨

IT・ソフトウェア企業勤務 伏間 明子さん

「このプログラムを選んでよかった」と思ったこと

多様なバックグラウンドのクラスメイトと切磋琢磨し、グローバルに活躍するための知識と自信が身につきました。MBA定番の経営知識にとどまらないカリキュラムも魅力的で、データサイエンスや人的資本経営といった現代のビジネスに必須の知識や、リーダーシップや知識創造といった不確実な時代に求められる素養も養うことができました。現在は上場企業の企画職として働くなかで、プログラムで得た知識とスキルが役立っていると毎日のように実感します。

志望者へのメッセージ

このプログラムでの深い学びと仲間との絆は生涯の財産になりました。一度きりの人生、勇気を出して新しい世界に踏み出してみませんか？



教員紹介

経営分析プログラム すべての教員紹介はこちら

 熊本 方雄 教授 <small>研究分野</small> 国際金融論、貨幣マクロ経済学	 円谷 昭一 教授 <small>研究分野</small> 財務会計	 坪山 雄樹 教授 <small>研究分野</small> 経営組織論	 高田 直樹 講師 <small>研究分野</small> イノベーション論、経営組織論 技術経営論
--	---	---	--

経営管理プログラム すべての教員紹介はこちら

 田村 俊夫 特任教授 <small>研究分野</small> M&A、企業価値分析 コーポレート・ファイナンス	 加賀谷 哲之 教授 <small>研究分野</small> 財務会計、企業価値評価	 上原 渉 教授 <small>研究分野</small> マーケティング、消費者行動論	 鎌田 裕美 教授 <small>研究分野</small> 観光マーケティング 観光客の行動分析
---	---	---	--

金融戦略・経営財務プログラム すべての教員紹介はこちら

 中川 秀敏 教授 <small>研究分野</small> 金融リスク計量モデル 数理ファイナンス	 野間 幹晴 教授 <small>研究分野</small> 財務会計、企業価値評価 企業変革	 横内 大介 教授 <small>研究分野</small> データサイエンス、統計科学 データベース論	 清水 良樹 准教授 <small>研究分野</small> 資産価格理論の実証研究、不動産ファイナンス、都市経済学、空間計量経済学
--	--	--	---

ICS すべての教員紹介はこちら

 大園 恵美 教授 <small>研究分野</small> 競争戦略論 イノベーション・マネジメント 知識経営論	 楠木 建 特任教授 <small>研究分野</small> 競争戦略	 孫 康勇 准教授 SUN, Kangyong <small>研究分野</small> Digital Innovation and Transformation, Corporate Entrepreneurship, Management of Innovation, Entrepreneurship, Global Management	 リー・ジンジュ 准教授 LEE, Jinju <small>研究分野</small> 戦略マネジメント、国際ビジネス、 知識創造論
--	--	--	---

入試情報・学費

入試情報

各プログラムによって異なります。各プログラムの募集要項には最新情報が掲載されていますので、必ずそちらもご確認ください。

プログラム名	定員	入試時期	出願期間	1次試験	2次試験	入試情報	
経営分析プログラム	40名	一般選考	—	7月中旬	8月下旬 筆記試験	9月中旬 口述試験・書類選考	
		企業派遣特別選考	第1期	9月下旬	10月中旬 書類選考	11月上旬 口述試験	
			第2期	1月上旬	2月上旬 書類選考	2月中旬 口述試験	
経営管理プログラム	53名	第1期	9月下旬～10月上旬	10月中旬 小論文・書類選考	11月上旬 口述試験		
		第2期	1月上旬	2月上旬 小論文・書類選考	2月中旬 口述試験		
	ホスピタリティ・マネジメント・プログラム	10名	第1期	9月下旬～10月上旬	10月中旬 小論文・書類選考		11月上旬 口述試験
		第2期	1月上旬	2月上旬 小論文・書類選考	2月中旬 口述試験		
金融戦略・経営財務プログラム	41名	秋期募集	9月下旬	10月下旬 書類審査	11月上旬 口述試験		
		冬期募集	1月上旬	2月上旬 書類審査	2月上旬 口述試験		
国際企業戦略専攻 (ICS)	58名	第1次	8月上旬～10月上旬	11月下旬 口述試験 (オンライン)	—		
		第2次	11月上旬～2月上旬	3月下旬 口述試験 (オンライン)	—		

学費

一橋ビジネススクールの入学金は282,000円(初年度のみ)、授業料は642,960円です。2年で修了する場合の合計金額は1,567,920円となります。

一橋大学では、「高等教育の修学支援新制度」、日本学生支援機構貸与奨学金、学内奨学金、民間奨学団体・地方公共団体の奨学金など、さまざまな奨学金を扱っています。

また、各プログラムは、厚生労働省が実施する教育訓練給付制度の対象です。

<h3>お問い合わせ先</h3>	経営分析プログラム / 経営管理プログラム info@cm.hit-u.ac.jp 金融戦略・経営財務プログラム chiyoda-info@hub.hit-u.ac.jp 国際企業戦略専攻 (ICS) ics-opencampus@ics.hub.hit-u.ac.jp
------------------	---